

「遊びの場面が十分に活用されているでしょうか」

水 原 泰 介

夫々の園児の性格特徴やその時々々の欲求情緒の状態などを適確にとらえることが出来たならば、園児の個性を生かし、望ましくない性向を矯正し、健全な精神的発達を助長するのに非常に役立つでしょう。園児のこのような心理的特徴を理解する方法として最も多く用いられているのは、行動観察です。幼稚園の先生は園児の子供同志の接触や、園児と先生との交渉の際に、或は園児が積木その他の遊具を扱う際に、どのような行動を示すかを見て、その子供の性質やその時々々の気持を判断される場合が多いでしょう。

幼児は自分の不安、願望、嫉妬、不満などの複雑な気持を他の人に十分に理解させるだけの言語的表現力をもっておりません。従って大人は幼児の言語的表現によって直接に幼児の気持を理解することは困難です。併し、幼児は単に言語的表現によってのみ自分の気持を外に表現するのではなくて、その他の色々の媒体、例えば、表情、音色、動作、絵、ねんど細工などによって

も自分の気持を外に表出します。これらの表現は、言語的表現の場合のように、相手に対して自分の意思を伝達するという意図をもって行われる場合は少いでしょう。けれども、我々は注意深い観察によって、これらの表現の多くを理解することが出来ます。また、子供の言語的表現もこれらの色々の媒体による表現の観察によって、補足されて、より適確な理解が可能になるでしょう。

子供の気持が比較的自由に表出されるのは、その表出が容易に行われるような表現の媒体の使用が可能であり、且つそれを表出しても何等の罰も与えられない気楽な場面です。このような場合の一つが遊びの場面です。例えば、自分がむしゃくしゃした気持になった時に、弟をぶつたりしたら親にひどく叱られるでしょうが、弟ではなしに、粘土をたたいたり、もみくしゃにしたりするのだったら誰からも叱られはしないでしょう。ですから、粘土遊びの場面では、子供は自分の気分のおもむくままに自由に、思う存分に振舞えるでしょう。この

ような場面は、先生にとって子供の気持の表出を観察するのに大層よい機会です。

なお、このような場面は観察者にとってよい機会であるばかりでなく、その子供自身にとつても非常に望ましい機会なので、子供の不安、怒り、嫉妬、不満などが外部に自由に表出される機会を与えられないうでいると、それは子供の人格形成に非常に悪い影響を与えます。遊びの場面に於て何等の罰の心配もなしに、自分の気持を外に思いっきり放出することによって、云わば心のしこりがとれ、気分鎮静がもたらされます。

幼児期は精神が非常に可塑性に富んでおりそれだけに、どのような体験をもつかによつてその精神に大きな影響を与えられます。どの子供でも何等かの困難や葛藤状態を必ず経験するでしょうが、その時の悩み恐れ、怒りなどが表出される機会をもち、それを理解した大人から適切な指導を与えられるならば、精神に大きな歪みを残すことなく健全な発達がなされるでしょう。これとは逆に、心にしこりを残したままでい

る子供は、それが温度の攻撃的行動・恐怖心などの不適応行動をひき起し、その不適応行動によつて更に心理的葛藤を強めるといふ風な悪循環を生み出し、望ましくない人格特徴が次第に強固なものとなつてゆきます。

このように見て来ますと、私達は遊びの場面を今迄よりもつと有効に用いる必要を痛感するでしょう。遊び場面の効果を生かすためには、遊び場面の実態を正確にとらえることが必要です。ここでは粘土遊びを例にとつて遊びがどんな風に行われ、それがどのような意味をもっているかを少し詳しく見てみましょう。父兄や幼稚園の先生の中には、粘土遊びでは、子供は何かを作る(模造する)のが面白くてやるのだとさめてかかる人がいますが、このような考えから誤つた扱い方が生れるようです。子供が粘土で遊ぶ遊び方には幾つかの段階があります。初期の段階では、子供は粘土を「これは何だろう」と「研究」或は「実験」してみます。即ち、摺んだり、たたいたり、投げたり、顔にくっつけてみたり、

噛んだり、踏みつけたりします。このような段階の子供は、粘土で何かを作ろうとはしません。彼等には「これは何だろう」を明かにすることが関心のまとなのです。

次の段階では、「これは何だろう」を明かにするというよりは、単に粘土を色々といじくり廻してみることに興味をもちます何かを作ろうと云ふ意図をもっているわけではなく、単に粘土を丸めたり、ちぎったり、たたいたりすることが子供にとっては面白いのです。そうするだけで、一種の成就感、満足感をもちます。粘土を丸めたりちぎったりしただけで「ほら、見てごらん」と云つて得意そうな顔をします。こんな場合に大人が「何を作ったの。おだんごですか」などと尋ねるのは、子供にとっては云わばとんちんかんな質問です。こんなことを尋ねるよりは「あら、面白いわね」とあいづちをうってあげる方がよいのです。

第三の段階では、何かを作ろうとして(多くの場合「これ」といったはつきりした目標はなかつたただ何かを作ろうとして)粘

土をいぢつている中に、たまたま或る形が出来るとそれに名前をつける。例えば「ボールが出来た」と叫ぶ。そして子供にとつてはその形がほんものに似ていようと似てまいとそれはどちらでも構わないのです。併し子供にとつてはそれはボールの模造ではなくて、ほんとうのボールなのです。彼はほんもののボールを扱うようにその粘土の「ボール」を扱う。「おだんご」が出来た時にはそれをかじつたりする子供もいます。

第四の段階では、子供は、作るものをはつきりと予定して作り始める。例えば、「自動車を作るんだ」と云つて作り始める。そして、出来上つたものも、ほんとうのものではなくて、その模造であることを認めている。

幼稚園の先生や父兄の中には、粘土遊びはこの第四の段階の遊び方をするものだと決めてかかり、その子供が第一、第二の段階の遊び方をしているにも拘らず、第四の段階の遊び方をしているかの如くに扱う人がいます。このような誤つた考えで扱いま

すと、子供は当惑して、せつかくの楽しみが台なしにされてしまう場合も少くありません。

ここに述べました四つの段階は実際にはそれ程確然とした区別がつけられず、これらの中間的な段階も屢々見られます。私がここで述べたいのは、粘土遊びにも色々の段階があり、遊びの効果を十分に生かすためには夫々の段階に応じた扱い方をするこゝとが望ましいと云うことなのです。

子供の不安、怒り、嫉妬、葛藤などは、これらの何れの段階に於ても表出されまゝです。例えば、満たされない気持でいららしている子供は、粘土をやたらにこねまわしたり、ちらかしたり、踏みつけたりする(第二の段階)でしょう。或は(粘土の)ナイフで(粘土の)人形を突き刺したりする(第三や第四の段階)でしょう。

このような場合に、我々は精確な行動観察を行い且つその子供に出来るだけ自由にその気持を表出するようにしむけてやることによつて、前述のような診断を治療の目的を達成することが出来ます。ここで強調

しておきたいことは、適確な観察が行われなければ、子供に対して適切な処置をとることが難しいと云うことです。診断の下手な医師が適切な治療を行うことは望み難いことです。

その遊びがその子供にとつてどのような意味をもち、その子供のどのような気持が表出されているかを理解するためには次の諸点に注意して観察を行うことが望ましいと思ひます。

(1) その子供が遊んでいる事態。

その子供の近くにどのような子供が、何人位、どのようなことをしているか。

その場所の雰囲気(例えば、さわがしい、厳しい統制、なごやかな)。

その遊びの材料は自由に手に入れることが出来るか。

(2) その遊びの開始。

その前に彼は何をしていたか。

彼は自発的にそこへ来たのか、先生に誘われて来たのか、他の子供達がやっているのを見て来たのか。

彼は直ぐに着手したか、のろのろと着手したか。

彼はその材料が汚いのを気にしているか。

彼はその材料を手あたり次第に使っているか、よく選択して使っているか。彼は何か特定のものを作ろうとしているか、単に材料をいぢることに興味を感じているのか。

(3)

その遊びに対する熱中の程度。他のことに気が散り易いか。他の子供のやっていることに関心が向けられて自分のやっていることがおろそかにされる傾向はないか。

白昼夢にふけり、遊びの方は第二次的なものとなつてはいないか。

その遊びそのものが面白くてやっているのか、それとも他の子供と一緒にいるのが楽しいからやっているのか。

(4)

その遊びに費している精力の程度。その材料の扱い方、体の動し方、口のきき方に力がかもつて活潑であるか。疲れてしまうまでやり続けているか。

始めはのろのろとしていたが、次第に熱を帯びて活潑になって来たか。それとも逆に、始めは活潑だが、後に次第に熱がさめて来たか。

(5)

遊びの進み方。始めと終りとは遊び方が変化しているか。

だんだんと抑制がとれてゆき、より大胆に、冒険的になって行つたか。

始めは荒っぽいが、後ではよくととのつた振舞い方に変つて来たか。

遊んでいるうちに、気分に変化が現れたか。次第に鎮静してゆくのか、それとも興奮が高まるのか。

(6)

遊びの材料の操作の仕方。注意深い扱い方か、なぜやりな扱い方か。

動作は大きくて早いのか、それとも細かく、緻密であるか。動作はスムーズで流動的であるか、それともがたびしと痙攣的であるか。

その材料は、極く普通の仕方で使用されているか、それとも、普通とは異つ

た新奇な用い方が見られるか。

(7)

遊びの材料を他の子供と分け合うか、それとも独占しようとするか。

必要以上に材料を欲しがるか。

沢山の材料を用いて遊ぶか、少量しか用いないか。

(8)

遊びのテンポ。急速であるか、緩慢であるか。

場面によってテンポが異なるか、いつも同じテンポであるか。

(9)

体の動き。緊張した、かたくなな動きが見られるか。

安定した、調和のとれた動きを示すか。体全体を使つてのリズミカルな動きであるか、それとも体の一部だけを使つた固い感じの動作であるか。

(10)

発言。

遊びながらしゃべったり、歌ったりするか。くすくす笑ったり、叫び声を上げたりすることはないか。声の調子はどうか。 (例えば、緊張味を帯

びた、攻撃的な、柔い、など)

以上のような点に注意しながら子供の行動を観察して、出来るだけ正確な記録を残しておきます。それが何回分もたまって来るにつれて、その子供の情緒、欲求、全体的な人間像が次第に浮び上って来るでしょう。また、もつともつとはつきりさせたい点も出て来るでしょう。そして子供の遊びを観察することが非常に興味深いものであることに気づかれるでしょう。ここでちょっとつけ加えておきたいことは、これらの観察結果についての、解釈や断定を急ぎ過ぎてはいけないことです。無理な解釈をしなくても、観察の回数を重ねていけば色々な点が次第にはつきりとして来ます。初めの間に無理な推測をして断定を下してしまいますと、それによってその後の観察並にその解釈がゆがめられる恐れがあります。

ここでは紙数の都合で、遊びの場面の行動の解釈や、遊びの場面での子供の扱い方について述べる事が出来ませんが、観察の仕方と共に遊びの解釈や扱い方を習得される必要があると思います。これら

の習得には或る程度の実習が必要ですが、若しこれらの習得によって、今まで、十分に活用されていなかった、遊び場面の効果を生かすことが出来るようになれば、幼稚

園教育の成果をより一層高めることになるでしょう。

(お茶の水女子大学)

予

告

▷日本保育学会(第八回)大会◁

期 日 5月21日(土) 午後1時から。
5月22日(日) 午前8時半から
午後4時まで。

会 場 お茶の水女子大学講堂

内 容 研究発表, シンポジウム, 共同研究
(幼児の発達調査) 発表。

資 格 正会員, 準会員, 臨時会員(当日受付)

連絡先 東京都文京区大塚 窪町
お茶の水女子大学児童学研究室
日本保育学会大会準備係